

大五産業

産廃中間処理施設を建設

古紙のリサイクル設備も

一般廃棄物の収集運搬業者、大五産業（滋賀県草津市、権田陽子社長、077・564・2274）は草津市内に古紙や専ら物の圧縮・梱包施設の建設を進め、来年3月より稼働を開始する計画を示している。子会社である湖南地区資源開発センター（草津市）による産業廃棄物の中間処理施設

も併設し、全国でトップクラスの人口増加率である市内の需要にこたえていく。敷地面積は1200平方メートル。古紙のリサイクルには処理能力68ト（日量）の設備を整えており、市内の事業系を中心に回収を行う予定になっている。今年6月に一般廃棄物処理施設の設置許可を取得。将来的には家庭系

古紙のリサイクルも視野に入れている。

同社は現在、市内の家庭系を中心とした廃棄物の収集運搬や、市の委託として不燃物の選別処理を行っている。2003年に稼働を開始した選別ラインは、月間80トの不燃物を処理しており、リサイクル率向上に努めている。不燃物は搬入後、選別しやすいように前処理工程を経て、振動ふるいと手選別が行われる。廃プラやゴム、ガラスなど17

品目に分けられ、種類に応じリサイクル業者に引き渡している。

01年より市内百貨店に専用ボックスを設置し、市民からの廃食器を独自に回収。岐阜県の業者により再商品化されている。同技術は百貨店のイベントなどで紹介されている。同社管理部の田中敬子氏は「将来的には市が回収できるようなシステムになれば理想的。今は前段階と捉え、質や量の把握に努めている」と話している。